

## 始めてますか？秋季防除

### 1 黒星病

9月下旬現在、葉における発生は平年よりやや多い状況です。秋季防除を徹底してください。

#### 【防除対策】

##### ①薬剤防除

重要な防除時期は、秋型病斑の発生が増加する9月中旬～10月、りん片生組織の露出が多くなる10月中旬～11月上旬頃です。薬剤の散布は2週間間隔で2～3回程度行います。特に徒長枝の先端に薬液が十分かかるよう丁寧に行い、薬剤のかかりにくい部分は手散布等により補正散布をします。

また、農薬の使用回数は本年の収穫終了後から翌年の収穫終了までをカウントするので注意してください。

##### ②落葉処理

次年度の発病を抑制するには、越冬する病原菌の密度を下げる落葉処理が最も効果のある対策です。

落葉の残存量が少ないほど翌春の果そう発病率が低いことが知られ、落葉の残存量は「収集・持ち出し処分」が最も少なく、次いで「粉碎（2回）」、「中耕すき込み」、「粉碎（1回）＋中耕すき込み」の順に少ないことが報告されています（富山県）。

#### 【ポイント】

原形をとどめた落葉をほ場に  
残さない

### 2 炭疽病

本年度は、9月以降に県西、県南地域を中心に県内全域で発生し、一部ほ場で早期落葉が認められています。

#### 【防除対策】

秋季防除の薬剤は、耐性菌リスクの高いQoI剤の使用は避けましょう。次ページの薬剤の例を参考にしてください。

越冬菌の密度を下げる対策として、黒星病と同様に落葉処理を徹底します。被害の大きかった枝は、優先的にせん除するとともに、側枝の花芽整理を行います。

せん定時は健全樹と見分けづら  
いため、罹病樹には印をつけて  
おきましょう

### 3 カメムシ類

本年は4月下旬から平年より発生が多く見られました。次年度に向けて引き続き対策をしましょう。

## なしに登録のある薬剤の例（殺菌剤）

最新登録日：令和6年10月1日

対象病害	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	有効成分	総使用回数	FRACコード
炭疽病 黒星病 輪紋病	オキシラン水和剤	500倍	収穫3日前まで	9回以内	キャプタン	9回以内	M04
					有機銅	12回以内（但し、塗布は3回以内、散布は9回以内）	M01
炭疽病 黒星病 輪紋病	デランフロアブル	1000倍	収穫60日前まで	4回以内	ジチアノ	5回以内	M09
炭疽病 黒星病 輪紋病	オーソサイド水和剤 80	800倍	収穫3日前まで	9回以内	キャプタン	9回以内	M04
炭疽病 黒星病	チオノックフロアブル トレノックスフロアブル	500倍	収穫30日前まで	5回以内	チウム	5回以内（但し、休眠期は1回以内）	M03

※オキシラン水和剤とオーソサイド水和剤 80 は同一成分（キャプタン）を含むため、総使用回数に注意してください。

## なし（無袋栽培）に登録のある薬剤の例（殺虫剤）

最新登録日：令和6年10月1日

対象害虫	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数	有効成分	総使用回数	IRACコード
かみん類 ハマキム類	スミチオン水和剤 40	1000倍	収穫21日前まで	6回以内	MEP	6回以内	1B

※チオノックフロアブル及びトレノックスフロアブルは、スミチオン水和剤 40 との混用事例がありません。スミチオン乳剤との混用事例があります。

※秋季防除の際は、生育期に使用する薬剤（薬剤の使用回数等）を考慮して、薬剤を選択します。

○来シーズンに向けて、秋季の病虫害防除を徹底してください。

資料の作成にあたっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍数や使用量、使用時期、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。